

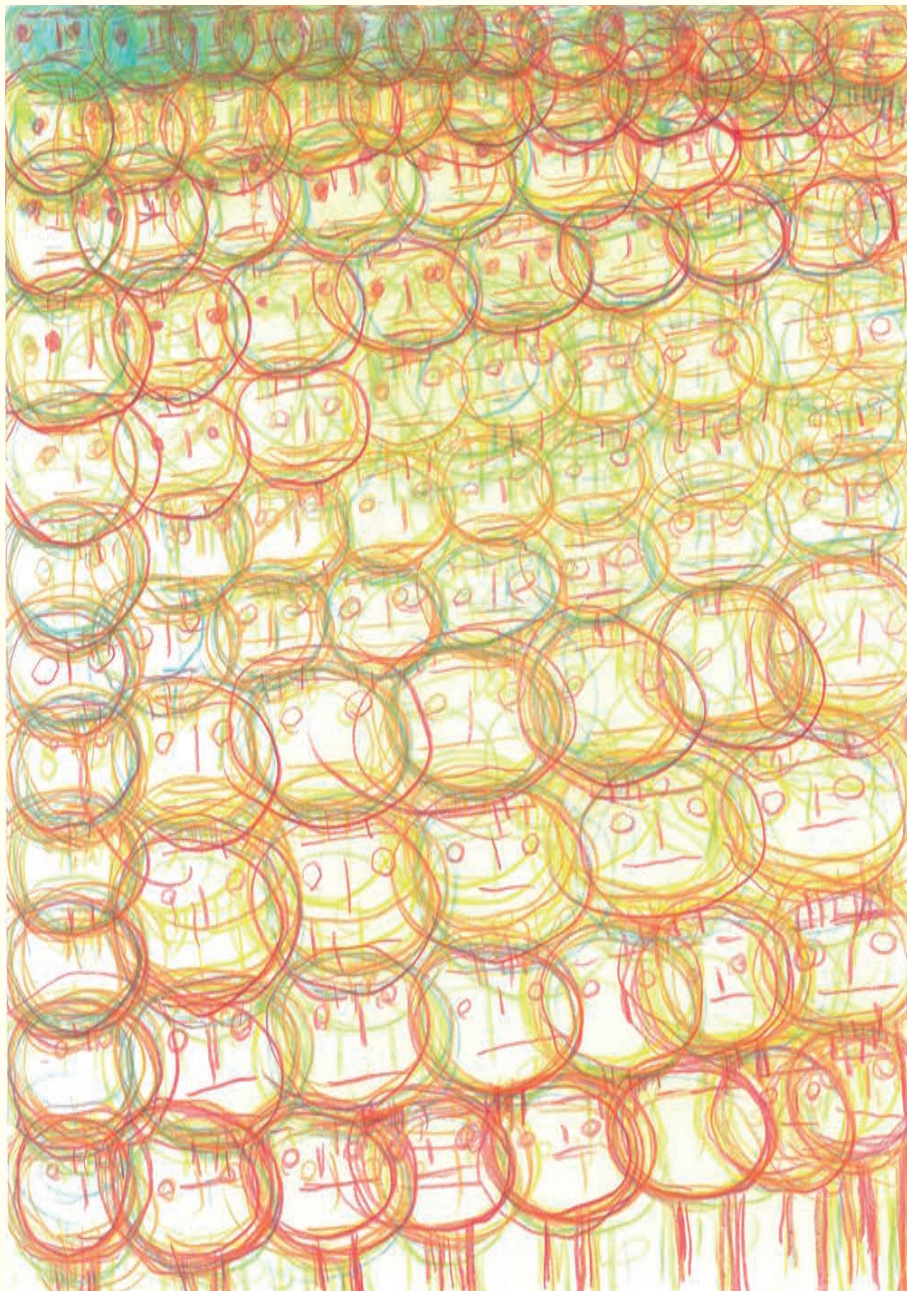
元気の出る情報・交流誌

2024

10月

[No.824]

手をつなぐ



特集

あなたの居場所

今月の問題

特別支援学校の教室不足

ひびき

五十嵐大 (作家)

一つ屋根の下でくらすせんせいと「わたしの自立」を考える [新連載]

あなたはあなたであっていい Aju

わたしたちも言いたい 大人になって描いた夢 清水拓弥 2

知りたい! あなたの見ている・感じている世界 [第7回] 他者の受容と食の受容 福田香苗 5

特集

あなたの居場所

知的障害・発達障害のある人と「居場所」 又村あおい 8

居場所づくり事例

core 村尾晴美 12

WAKUWAKUホーム 天野敬子 14

むぎのこ 古家好恵 16

かえるのいえ 岩田武宏 18

長崎市手をつなぐ育成会会員定例会 吉井裕子 20

「居場所づくり」から「居場所開き」へ 鈴木励滋 22

誰にとっても居場所は大事 湯浅 誠 24

居場所の大切さと居場所づくり 古川慎治 26

今月のオススメ 29

ひびき

困難を抱えている当事者の人たちが無理しないような社会に変えていきたい 五十嵐 大 30

いっしょに話そう! 性のこと。第19回

意外と身近な性感染症 早期発見・早期治療が大切! 門下祐子 33

今月の問題

特別支援学校の教室不足 34

くらしを支える福祉の制度 第45回

障害者差別解消法について その1 又村あおい 38

あなたの街の育成会

陸の孤島の小さな組織でも特色のある活動をして未来につなげる

新宮・東牟婁手をつなぐ育成会 羽山早穂 40

中央の動き

障害児通所支援サービスのガイドラインが改訂されました 42

ニュースのじかん 45

ちいきのいいもの 第47回

フェルト工芸 たんぽぽ

◎ 表紙絵作者のプロフィール

■寺本澄子 (てらもと・すみこ) 69歳 ■熊本県熊本市 しょうぶの里 ■タイトル のっぺらぼう

■ひとこと 私の作品は顔を描いたり、描かなかったりします。すきなことはカラオケで、好きな食べ物のはるまきとぜんざいとコロッケです。

大人になって描いた夢

東京都・駒込福祉作業所

清水拓弥

私は小さい頃、夢のない子どもでした。

小学生の時から漢字が全く読めず、

毎日ひらがなと名前を漢字で書く猛特訓を、

みんなと別の教室でしていました。

中学への進学するとき、お母さんは校長先生に

中学では特別学級に行くべきか相談していました。

結果として中学、高校は普通学級に進学しましたが

高校の時に入った野球部ではいじめにありました。

いじめを受けていた時期は楽しい気持ちになれず、

すぐに部活はやめてしまいました。



高校卒業の少し前に、先生の勧めで愛の手帳を取りにいきました。先生には「今まで持ってなかったの？」と不思議に思われました。その時は、自分でも自分に障害があるとわかっていたので、気になりませんでした。

今は障害者雇用として、受注関係の仕事とチョコ作成をしています。仕事はハードだけど自分に合っていると思います。

働いて夢ができました。今の私には夢があります。

「フイツシャーズ」のような、有名なユーチューバーになる夢です。他の職員と同じ仕事ができることも嬉しいし、自分で貯めたお金でパソコンや他の機材も買いました。

そして今、私をここまで育ててくれたお母さんに、ありがとうございますと伝えたいです。

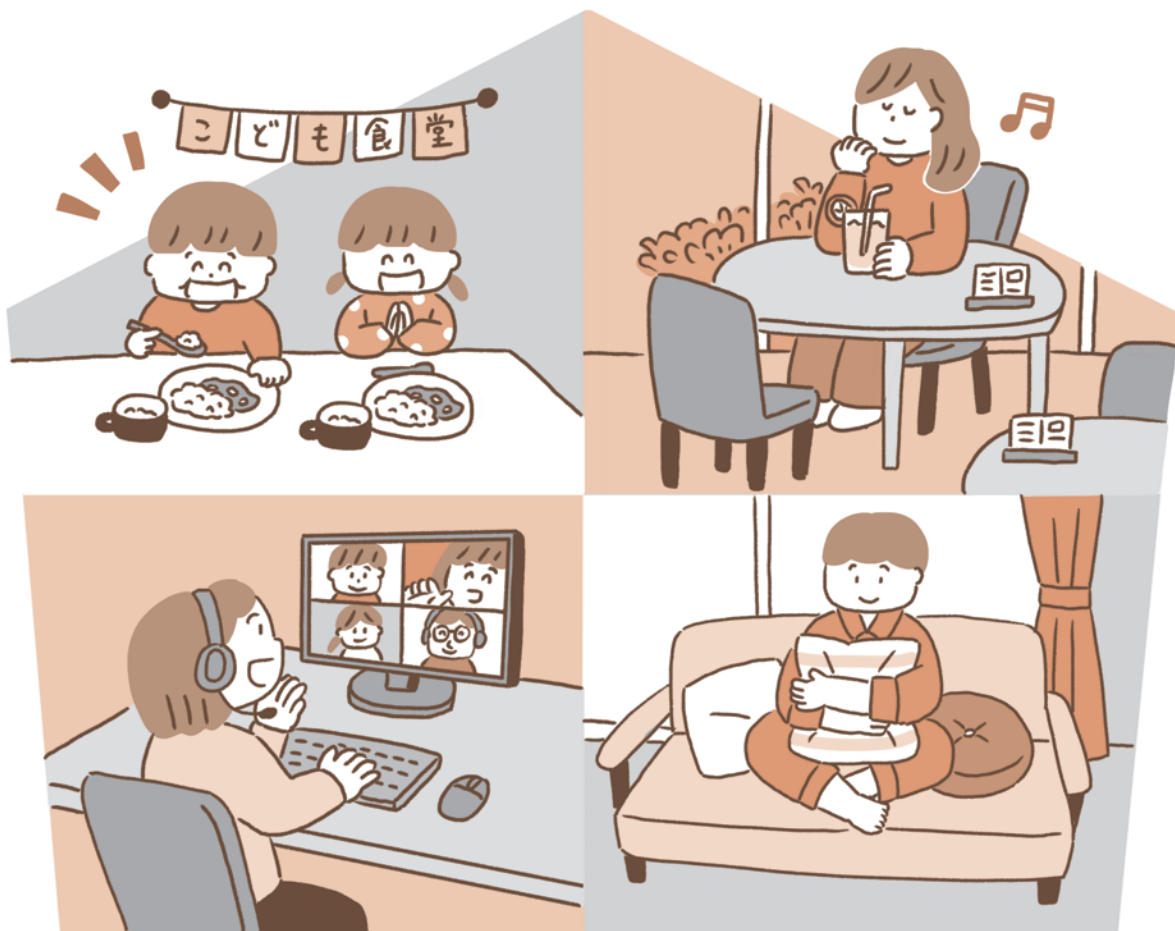
あなたの居場所

あなたには居心地のいい場所、「ここにいていい」と思える場所がありますか？
いま本人の「ここにいたい」を大切にしたい居場所づくりが、全国で広がっています。

居場所は本来与えられるものではなく、
自分で見つけるもの。居場所を見つける支援は重要な役割を担います。

本特集では、一人ひとりにとっての居場所の大切さについて考え、

主に知的障害のある人、発達障害のある人たちの
居場所づくりの実際の取り組みを紹介していきます。



知的障害・発達障害のある人と 「居場所」

全国手をつなぐ育成会連合会 常務理事 又村あおい

みなさんは「居場所」と聞いてどんな場所を思い浮かべるでしょうか。家庭を思い浮かべる人もいるでしょうし、働いている人であれば会社を思い浮かべるかもしれません。親しい友人との楽しい時間も、大切な居場所といえます。

しかし、知的障害・発達障害のある人や子ども（以下、知的障害者）について考えると、人にもよりますが「居場所」が豊富とはいえないケースが多く見られます。

そこで、今月号の特集では、知的障害者と居場所について考えてみたいと思います。

家庭・自宅

居場所には、知的障害の特性に応じたもの、年齢に応じたもの、あるいは物理的な意味の居場所や気持ちの面での居場所などがあります。ここでは、主に知的障害・発達障害の特性を考慮しながら整理したいと思います。10ページの表も参照してください。

まず、暮らしの基本となる居場所は家庭（自宅）でしょう。充実した旅行を楽

しんだ後に「やっぱりわが家が一番」と自宅でくつろぐ光景はお約束のようなものですが、とりわけ多くの知的障害者にとっては、自宅こそが居場所となっています。

これは統計データでも裏付けられており、厚生労働省が5年に1回実施している「生活のしづらさなどに関する調査」の令和4年版によると、19歳から64歳までの知的障害者は91・2%が自宅で親と同居しています。障害のない人との比較ではもちろんのこと、精神障害者や身体障害者と比べても極めて高い割合です。基盤となる居場所が確保されているという見方もできますが、逆に「自宅と学校」「自宅と施設」だけが居場所になってしまう懸念もあります。

会社などの働く場

次に思い浮かぶのが、会社や職場です。近年では知的障害者の企業就労率も高まっていますし、就労継続支援A型事業所・B型事業所のように支援を受けながら働く場も豊富にあります。実際に、会社や職場での働きが高く評価されて、表